

令和7年5月～6月実施研修の御案内

令和7年3月5日 (公財)東北自治研修所

1 第6回 改正民法研修(相続関係)〈参集型・オンライン型〉

この研修では、平成30年に大きな改正(相続法)が行われたことによる民法改正の概要、自治体業務への影響及び適切な対応・留意点等について、現役弁護士が、法律初心者にも理解しやすいよう、わかりやすい言葉で丁寧に解説します。

〔理解・習得のポイント〕

- 改正民法の概要
- 改正民法の業務への影響、適切な対応、留意点
- 法律的な考え方の基本

実施日

令和7年

5月15日(木)～16日(金)

対象

受講を希望する職員

人数

- 参集型 30人程度
- オンライン型 30人程度

申込

別紙受講申込書を送信ください。
申込期限：4月22日(火)

準備物

ポケット六法、自治六法等の六法を
準備してください。種類は問いません。

講師

ひろむ法律事務所 弁護士

けむ やま まさ ひろ

煙山 正大 氏



当所、中堅職員研修で「民法」を指導し、
わかりやすさは、受講者から絶賛されています。

仙台弁護士会では法教育委員会委員、子どもの
権利委員会委員等を担当し、平成31年度より仙台市
スクールアドバイザーを務めています。

●●講師からメッセージ●●

改正民法の中には従前のルールと大きく異なる部分があるので、「今までどおり」に処理してしまうと思わぬトラブルが生じる可能性があります。

本講義では、改正の内容やその背景にある考え方、実務上注意すべき点について、具体的事例(設問)をもとに解説します。

※ 令和6年度から、オンライン受講者の方には、修了証は交付していませんので承知願います。

日程

月日	時刻	内 容
5月 15日 (木)	9:30	開講式・オリエンテーション
	10:00	1 遺産分割について ・ 預貯金の取扱い ・ 一部分割
	12:00	・ 逸失した遺産の取扱い ・ 持戻し免除
		昼休み
	13:00	2 配偶者(短期)居住権
	17:00	3 遺言制度 ・ 自筆証書遺言 ・ 遺贈 ・ 遺言執行者
16日 (金)		宿泊オリエンテーション
	9:00	4 遺留分制度
	12:00	
		昼休み
	13:00	5 相続の効力 ・ 対抗要件 ・ 債務承継
	16:00	6 特別の寄与制度
		閉講式

令和6年度受講者の声(債権関係)

- ・ わかりにくい部分は繰り返し解説をしていただくなど、受講生に寄り添った進行でした。
- ・ 身近な事例に置き換え、簡単な例え話を差し込むなど理解しやすい内容で教えてもらえました。
- ・ 役所の業務を想定して説明してもらえた。大変熱心に講義してくださっていることが伝わりました。
- ・ 民法等、法律となると構えしまう部分があったが、事例で改正前後の違いや留意点などわかりやすくまなぶことができた。今後、債権以外の講習、研修があれば受講したい。
- ・ 法律の条文理解までの思考等、大変参考になりました。
- ・ 知識をアップデートができ、今まで身に付けた民法知識を振り返る機会となり、有意義な時間を過ごすことができた。

令和7年5月～6月実施研修の御案内

令和7年3月5日 (公財)東北自治研修所

2 第67回 風水害を想定した災害対応研修〈参集型〉

近年、東北地方でも風水害の被害を受けることが増加しています。自治体には、被害を最小限に止める防災・減災に務め、災害発生時の対応、事後の復旧・復興を想定しておくことが求められています。

この研修では、危機管理部門の職員に限らず災害に対応する全ての職員が、いざという時に適切な対応が取れるよう専門家の講義と被災を経験した自治体職員による経験談を共有することで、東北地方の広域的視野を含め、風水害に対する対応能力の向上と東北全体で協力・連携・応援できるような関係性づくりを図ります。

講師

〔理解・習得のポイント〕

- 風水害に関する自治体対応の基本
- 被災自治体職員の経験談を基にした所属自治体の実践的な対応の想定

実施日

令和7年
5月20日(火)～22日(木)

対象

- 災害対応に関わる職員及び興味のある職員
- 受講を希望する職員

人数

30人程度

申込

別紙受講申込書を送信ください。
申込期限：4月22日(火)

■東北大学災害科学国際研究所

教授 ^{まる や ひろ あき}
丸谷 浩明 氏
事業継続マネジメント(BCM)、企業防災、防災計画、
防災法制、防災ボランティア

准教授 ^{さ と う し ょ う す け}
佐藤 翔輔 氏
災害伝承学、災害情報学、災害文化、情報処理過程、避難行動

准教授 ^{もり ぐ ち し ゅ う じ}
森口 周二 氏
斜面災害、地盤災害、数値解析、災害調査

■関西大学環境都市工学部システム工学科

准教授 ^{は し も と ま さ か ず}
橋本 雅和 氏
河川工学、防災工学

■一般社団法人 東北地域づくり協会

技師長兼企画部長 ^{さ と う し ん ぐ}
佐藤 伸吾 氏
〔国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所 所長〕
※〔 〕内は、「令和元年台風19号」当時の所属・職名

■環境省 東北地方環境事務所 資源循環課 職員

日程

月日	時刻	内 容	
5月 20日 (火)	10:00-10:30	開講式・オリエンテーション	
	10:30-12:00	1 研修プロローグ	佐藤准教授
		昼休み	
	13:00-15:20	2 風水害等に対応する基本的防災制度及び平常時の備え	丸谷教授
	15:30-17:00	3 近年の風水害とその気象条件	橋本准教授
		宿泊オリエンテーション	
21日 (水)	9:00-12:00	4 災害時の地方自治体と国、他自治体、民間との連携	丸谷教授
		昼休み	
	13:00-13:30	5 令和元年台風19号時の吉田川の概要	佐藤技師長兼企画部長
	13:30-17:00	6 ワークショップ：被災自治体(県)の経験を聞く・学ぶ 令和元年台風19号時の体験談(宮城県災害対策本部、防災砂防課)	佐藤准教授
22日 (木)	9:00-10:30	7 土砂災害の予測と評価	森口准教授
	10:40-12:00	8 災害廃棄物について	東北地方環境事務所 職員
		昼休み	
	13:00-16:30	9 ワークショップ：被災自治体(市・町)の経験を聞く・学ぶ 令和元年台風19号時の体験談(大郷町、大崎市)	佐藤准教授
		閉講式	

講義・演習

◆ ワークショップ ◆

「令和元年台風19号」での自治体職員の体験談から学ぶ

台風19号(令和元年10月12日～13日)発生から約1か月間の自治体職員の体験を時系列に聞き、災害を疑似体験することで、自分自身が取べき行動を再確認し、危機に備えます。

■ ワークショップの流れ

- 1 スピーカー1人目の体験談（ワークシート記入）
- 2 スピーカー2人目の体験談（ワークシート記入）
- 3 両スピーカーに対し、質疑応答
- 4 グループ討議（ワークシート共有）
- 5 全体発表
- 6 両スピーカーからコメント
- 7 佐藤准教授から総括

■ 災害対応体験談 スピーカー予定者

〔 〕内は「令和元年台風19号」当時の所属・職名

◇ 宮城県総務部 参事兼私学・公益法人課長 伊藤 哲也 氏

〔宮城県総務部危機対策課 課長補佐（総括担当）〕

・県の災害対策本部での体験：情報収集、市町村支援、応援職員対応 等

◇ 宮城県北部土木事務所 技術副参事兼総括次長 伊藤 力 氏

〔宮城県土木部防災砂防課 技術補佐（防災企画班 班長）〕

・県の土木部門防災砂防課での体験：復旧復興、国の支援 等

◇ 宮城県黒川郡大郷町農政商工課 課長補佐 赤間 悠太 氏

〔宮城県黒川郡大郷町総務課 交通防災係長〕

・町の災害対策本部での体験：災害警戒本部、災害対策本部、避難勧告・避難指示発令

◇ 宮城県大崎市鹿島台総合支所 総合支所長 齋藤 健治 氏

〔大崎市鹿島台総合支所 地域振興課 課長〕

・市の出先機関での体験：消防団との連携、災害廃棄物、ボランティア対応 等

令和6年度受講者の声

- ・災害対応にあたる県と市町村の話を伺い、それぞれが課題としているものが分かりました。災害に関する制度をこれまで学ぶことがなく、事前に何をしておく必要があるのか気づきとなりました。
- ・ほぼ知識が無い中で、今回の研修を受講し、風水害について理論的、専門的に学ぶことができました。グループワークで実践力を身につけることができたので、現場の活動に活かしていきたい。
- ・事務職、技術職の区別なく、多くの職員に受講を勧めたい内容でした。

3 第39回 接遇研修指導者養成研修〈参集型〉

多様化、複雑化する住民ニーズに「公務の接遇」を意識し適切に対応することが、行政の信頼を高めることにつながります。若手職員を含めた組織全体でこの接遇の意識を共有し、一体感を持った住民対応を行うには、組織や地域の実情に通じた職員が講師を務める研修が効果的です。

この研修では、現場で起こりうる場面設定による模擬講義演習を通じて、実践的な指導スキルの習得を目指します。「新規採用職員向け研修講師」をはじめ、「窓口等の接遇指導」、「接遇対応マニュアル作成」等に役立つ研修です。

なお、本年度から一般財団法人公務人材開発協会による認定証の交付はありませんが、担当する講師は継続し、研修は、これまでの内容に沿って、近年の組織や地域の実情を取り入れ実施いたします（※修了者には、当研修所からの研修受講に伴う修了証書については、交付します。）。

〔理解・習得のポイント〕

- 公務特有の接遇のあり方
- クレーム対応の理解、対応手法
- 「模擬講義」による講師スキル

実施日

令和7年

5月28日(水)～5月30日(金)**対象**

- 接遇研修の指導職員(予定者)
- 受講を希望する職員

人数**定員20人**

※ 受講申込者が14人未満の場合は、実施しない場合があります。

申込

別紙受講申込書を送信ください。
申込期限：4月25日(金)

※ テキスト代の負担はありません。

講師

ディーヴェル 代表

かね こ きょう こ
金子 恭子 氏

話し方の講師も務めます。

メリハリのある講義は、受講者を引きつけ、具体的でわかりやすい説明は、日頃の疑問を解決します。

月日	時刻	内 容	
5月28日(水)	13:00	開講式・オリエンテーション	
	13:30 16:30	第1章 接遇を理解する	
		宿泊オリエンテーション	
29日(木)	9:00 12:00	第2章 土台が重要	講義 演習
		昼休み	
	13:00 17:00	第3章 窓口対応 第4章 電話対応	
30日(金)	9:00 12:00	第5章 クレーム対応 第6章 自分の職場の接遇について考える	
		昼休み	
	13:00 16:00	まとめ 指導者になるために	
		閉講式	

令和6年度受講者の声

- ・重要なポイントを端的に指導して頂き、非常に分かりやすかったです。講師の話し方もメリハリがあり、自然と引き込まれました。
- ・担当部分について、事前に読み込み、考えたのは勉強になりました。普段、これほど、シミュレーションをする機会は無いので、学びが多かったです。
- ・研修テーマから厳しい内容をイメージしていましたが、明るく優しい和やかな雰囲気、重要なポイントもよく伝わり、良かったと思います。

4 第10回 研修企画者養成研修〈参集型〉

限られた人材で組織成果を向上させるための要素として、職員一人ひとりの能力向上があります。研修担当者には、組織の人材育成計画と組織の研修ニーズをベースに、職種や階層等が異なる多様な職員に適した研修を企画・実施することで職員の能力向上を図ることが期待されます。

自らがカリキュラム作成をすることで、より現状の課題とマッチした、講師に頼りきりにならない、組織に適合した効果的な研修につながっていきます。

近年変化が著しい「研修」について、最新の情報を含む講義と演習を通じ、「研修を企画・実施する立場として必要なスキルを身につける」研修です。

〔理解・習得のポイント〕

■ 研修企画・立案の基本

■ 研修効果を高めるためのカリキュラム

実施日

令和7年

6月4日(水)～5日(木)

対象

- 職員研修を担当する職員
- 受講を希望する職員

人数

18人程度

申込

別紙受講申込書を送信ください。

申込期限：4月30日（水）

準備物

パソコン

※カリキュラム作成に使用します。

講師

(一社)日本経営協会 講師

ひら い さい こ

平井彩子氏



経済産業省ダイバーシティ普及アンバサダー事業 委員、中小企業診断士、基本情報処理技術者

「IT(PC、システム)を活用した業務の改善、業務フローの再構築」、
「人事評価システムの構築」の支援などを行っています。

朝日デジタル「ワーク・ライフ・バランスとは？改めて意味を解説」、
企業実務「DX時代に必須のリスキリングの進め方」等投稿

月日	時刻	内 容		
6月 4日 (水)	10:00	開講式・オリエンテーション		
	10:30	1 研修企画・運営者としての役割理解	講義	
	12:00			
		昼休み		
	13:00	2 人材育成最前線・最新用語 3 研修の企画と立案の基本	講義 演習	
	17:00			
	宿泊オリエンテーション			
5日 (木)	9:00	4 研修効果を高めるためのカリキュラム作成		
	11:30			
		閉講式		

令和6年度受講者の声

- ・研修受講者の視点を知ることができて大変ためになった。ポイントがまとまっており、職場に戻っても実践できそう。
- ・聞き取りやすく、説明も具体例を交えながらわかりやすい。熱意も感じられ、モチベーションも上がりました。
- ・カリキュラムをつくる側の考え方を知るとは、今後の業務に非常に有効でした。
- ・研修の目的や自分の思いを述べるにより、受講者の姿勢も変わるという講師の話から、今後の研修企画に意欲がわきました。

5 第10回 研修講師養成研修〈参集型〉

職場内研修の講師を務めることになったら、どう準備したらよいでしょうか。この研修では、わかりやすいレッスンプラン・カリキュラム作成のスキル及び講師としての話し方、受講者とのやり取りの仕方等のインストラクションスキルの向上を講義・演習・模擬講義により図ります。

〔理解・習得のポイント〕

- レッスンプラン作成
- 「模擬講義」による講師スキル

実施日 令和7年
6月5日(木)～6日(金)

- 対象
- 職員研修の指導職員(予定者)
 - 受講を希望する職員

人数 18人程度
※ 受講申込者が10人未満の場合は、実施しない場合があります。

申込 別紙受講申込書を送信ください。
申込期限：4月30日(水)

準備物 パソコン
※発表資料の作成及び修正に使用します。

講師

(一社)日本経営協会 講師

ひら い さい こ
平井彩子氏



経済産業省ダイバーシティ普及アンバサダー事業 委員、中小企業診断士、基本情報処理技術者

「IT(PC、システム)を活用した業務の改善、業務フローの再構築」、
「人事評価システムの構築」の支援などを行っています。

主な講義実績

内閣府、千葉県、青森県、福島県、郡山市、他多数自治体

大手自動車メーカー、大手建材メーカー、中小企業大学校、中小企業診断士向け理論研修 他

月日	時刻	内 容
6月5日(木)	13:00	開講式・オリエンテーション
	13:15	1 研修内部講師の役割・必要な能力 2 レッスンプランやカリキュラム構成のコツ 3 インストラクションスキルの向上
	17:15	4 プレゼンテーションスキルの向上
		宿泊オリエンテーション
6日(金)	9:00	5 模擬講義準備
	12:00	6 模擬講義 (ビデオ撮影、視聴、ブラッシュアップ)
		昼休み
	13:00 16:00	6 模擬講義(続き)
		閉講式

令和6年度受講者の声

- ・講義は、問い合わせを挟んでわかりやすく、庁内講師を務めるにあたり、自分が知りたいことが網羅されている講義でした。
- ・演習では、ビデオ撮影で自分の治すべき癖がよくわかった。また講師から個別にフィードバックがあったのがよかった。
- ・講師の教え方が、明るい内容でユーモアもあり、非常に理解しやすかった。
- ・平井先生が講師ということで、上司に受講を勧められ、大変勉強になりました。後任にも受講を勧めたいと思います。

〔研修会場・連絡先等〕

1 研修会場

公益財団法人 東北自治研修所（東北自治総合研修センター内）

〒981-3341 宮城県富谷市成田二丁目22-1

TEL：022-351-5771 FAX：022-351-5773

（アクセスは、東北自治総合研修センターHPを参照してください。）

2 経 費

■ 研修受講料は、**無料**です。（東北6県からの負担金を充てています。）

■ **青葉寮（宿泊施設）利用負担金**

利用負担金の金額は、別途通知文書を確認ください。

- ・研修終了後に発行する請求書により、貴機関から指定の口座へ振り込み願います。
- ・夕・朝食代の現金別払いを希望する場合は、受講決定後提出の「受講前の報告書」に記載ください。
- ・前・後泊する場合は、4,100円／泊（夕食・朝食無し）を追加し、外泊する場合であっても、負担金は減額いたしません。
- ・前泊して夕・朝食を希望する場合は、「受講前の報告書」で申し込み、現金で支払いください。

■ **テキスト負担金**

テキスト代(実費)を負担していただく研修もあります。各研修の案内を御覧ください。

3 宿泊・食事・受付

■ 受講者は全員、東北自治総合研修センター内の寄宿舍「青葉寮」に宿泊していただきます。

■ 食事は、センター内食堂を御利用願います。夕・朝食代は宿泊負担金に含みます。昼食は、別途、券売機で食券を購入してください。

■ 開講式の30分前までに、受付で手続きしてください。（時間厳守）

詳細は、受講決定時にお知らせします。

4 新型コロナウイルス対策

国の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」及び宮城県の対処方針に対応した感染防止対策を行います。詳細は、受講決定時にお知らせします。

5 施設の概要

快適な研修生活をお送りいただくために、宿泊室は全室個室となっているほか、以下の施設を備えています。

○研修棟：講堂1室、教室7室、演習室20室、図書室〔蔵書約8,000冊、パソコン(インターネット接続可)、DVD〕、ラウンジ8室等

○宿泊棟：宿泊室250室(うち身障者用3室)、娯楽室、談話室、大・中浴場(シャワールームあり)、インターネット接続可(有線LAN)、食堂、売店

○屋内外施設：体育館(バレーボール・卓球等)、テニスコート、駐車場(270台)

※詳細は、東北自治総合研修センターのホームページをご覧ください。

6 連絡先

公益財団法人 東北自治研修所

〔東北6県の自治体職員の資質・能力の向上を図るため、6県の出資により設立された法人です。〕

URL：http://www.thk-jc.or.jp TEL：022-351-5771 FAX：022-351-5773

担当：三浦保徳、佐々木信一、泉澤千恵子 e-mail：kensyu@thk-jc.or.jp